

野 獣 は 放 た れ た。

ジャック・ニコルソン
ミシェル・ファイファー

マイク・ニコルズ監督作品

NICHOLSON
PFEIFFER

ウルフ

A Mike Nichols Film
WOLF

コロンビア映画提供

ダグラス・ウィック・プロダクション マイク・ニコルズ・フィルム ジャック・ニコルソン ミシェル・ファイファー "WOLF"

ジェームズ・スベイダー ケイト・ネリガン リチャード・ジェンキンス クリストファー・ブラマー 編集:サム・オースティン 美術:ホー・ウェルチ

撮影:ジュゼッペ・ロッシンノ 特殊メイク:リック・ベイカー 製作総指揮:ニール・マックリス&ロバート・グリーンノット

脚本:ジム・ハリル&ウズリー・スリック 製作:ダグラス・ウィック 監督:マイク・ニコルズ

オリジナル・サウンド・トラック ソニー・レコード

コロンビア映画作品

コロンビア

トライスター映画配給

CELEBRATED
INTERNATIONAL

A COLLABORATIVE RELEASE

THE WOLF IS A TRADE MARK OF
THE WOLF BRAND COMPANY
INTERNATIONAL



NICHOLSON
PFEIFFER

A Mike Nichols Film

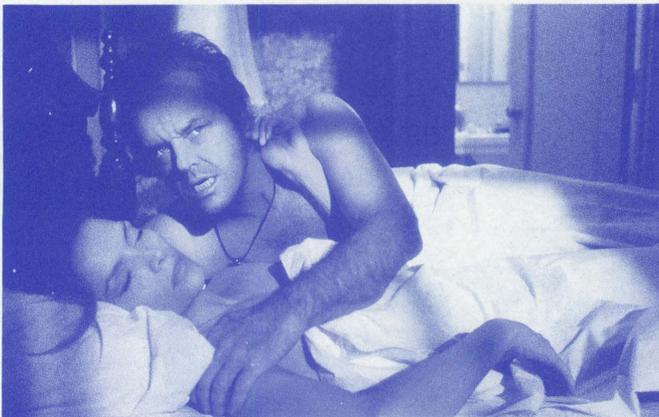
WOLF



「繊細な男の時代は終わり、狼男の時代がやってきた」ジャック・ニコルソン

— USAトゥデイ誌・3月8日 —

「あの狼は私に何かを与えたのだろうか。狼の魂の一部が何か私の血の中に混ざり込んでしまったのだろうか。一体何が起こったのか私にはさっぱりわからない。ただ、私はもう以前の私ではない。今の私は生きている。生気に溢れているのである」
—ウィル・ランダル



マンハッタンで本の編集の仕事をしているウィル・ランダルは会社を首になるかもしれないという恐怖にかられた日々を送っている。雪の降りしきる日曜の夜、ウィルはぼんやりとした頭で人里離れた田舎道に車を走らせている。

突然、車の前に黒っぽい影がぬっと現れ、ウィルは慌ててブレーキを踏む。車は大きく揺れ、横滑りしながら道の脇に停止する。彼はそっと車から降り雪の上の一筋の血の跡を辿

っていき、そこで一匹の大きな狼を見つける。最初はそれが何者であるかはっきりとわからなかったが、獣は間違いなく生き物であった。暗闇の中へ逃げようと立ち上がった狼は、逃げ際にウィルの手首に噛みつく。

この瞬間からウィルの人生は変わり始める。異変は当初、わずかなものに過ぎなかつ

た。しかし、次第に彼の五感はずき登まされていき、まわりの人間への洞察力も鋭くなっていく。日に日に彼は神秘的な狼の野性の魂に引き込まれていく。ウィル・ランダルにとって、仕事も結婚生活も自分の人生の何もかもがもう元には戻れないようになっていく……。

監督のマイク・ニコルズは、ジャック・ニコルソンを待っていた。メイフラワー・ホテルから道を隔てた、セントラル・パークの南西の角にある湿った地下道への入口に置かれたデレクターズ・チェアに腰を降ろし、彼は主演俳優を待ち受けている。しかし、ここはニューヨークではなく、実際はカルバー・シティーにあるソニー・ピクチャーズの撮影スタジオである。このセットで、今まさに不気味な出来事が起ころうとしていることだけは確かである。

恐れれば、恐いほど、セクシー。

ジャック・ニコルソンは、もはや女性にとって危険な存在になった。

「ウルフ」は、4年前の小説家ジム・ハリソンとプロデューサーのダグラス・ウィックの飛行機の機内での会話から生まれた。「僕の住んでいる場所は、人里離れた所なんだ」とハリソンの低い声が響いた。「野性の狼だって住んでいる。ある晩、狼が車にひかれた夢を見たんだ。狼を抱き上げると、その狼が僕の口から体の中に入り込んだんだよ。」

ハリソンに、精神科医のところに行くよう薦めるかわりに、ウィックはこの話はおもしろ



い脚本になると提案した。そこで、ハリソンは2年近くかけてコンセプトを練り、書き上げた脚本をバリーでニコルソンに見せた。

ニコルズを監督に選んだのもニコルソンだった。「何かひとつ上げるとすれば、この作品

は男の性を描いていると言える。昼間は英国紳士だが夜は野獣になるところさ。僕はこのコンセプトとすでに半分狼になっているようなジャックが狼男になる主演を演じることに興味を持ったんだ」とニコルズは語っている。「イエーツの詩の中の言葉で僕の心を毎週のように打つのが、"最善のものは信念に欠けているなか、最悪のものは熱意に満ち溢れている"だ。これは今世紀を語る言葉だよ」とニコルズは語る。

特殊メイク、特殊撮影、優れた映画の技(ワザ)はそれだけで感動できる。

「ウルフ」の成功は、スリラー、ロマンス、ホラー、そしてコメディが混ざった映画に合ったトーンとスタイルをニコルズが見つけれられるかどうかにかかっていた。

「撮影中に、“これは何の映画？”と聞いて、“ジャック・ニコルソンが狼になる映画”と誰かが言うのとみんな笑うの」というファイブ

一の言葉は「ウルフ」の成功を約束しているかのようだ。

「ウルフ」は、脚本製作だけでも200万から300万ドルかかり、総製作費が2500万ドルを超える高価な作品となった。撮影も夜間が多く、4~5時間かかるメイクもニコルソンにとって決して楽なものではなかった。



近日ロードショー!!

★特別ご鑑賞券発売中! ●一般券1,500円 ●学生券1,300円 ●ペア券(お2人で劇場窓口のみ)2,800円

有楽町マリオン9F

日劇プラザ

03(3574)1131

渋谷道玄坂109前

渋谷シネタワー

03(5489)4210